

No.430

恐竜足跡化石 大発見！

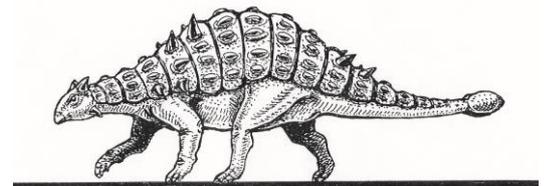
発見された足跡化石

平成24年10月に富山市大山地域の^{てとりそうぐん}手取層群（約1億2000万年前の地層）で発見し、平成25年11月に採集した凸型の恐竜足跡化石です。大きさは前足が長さ19cm、幅21cm、後足が長さ32cm、幅44cmです。^{おうぎがた}扇形に広がる前足の5本指のなればから、アンキロサウルス類のものである可能性が高いです。今回発見された場所は県内で5カ所目の恐竜足跡化石産地となり、アンキロサウルス類の足跡化石は国内では、大山地域の恐竜足跡化石群と今回発見された場所のみで発見され、世界でも20数カ所でしか発見されていない貴重なものです。



アンキロサウルス類とは

^{がんじょう}頑丈な頭骨と、^{ひこつばん}首から背中にかけて並ぶ皮骨板で体を守っていた植物食の恐竜で、別名「よろい竜」ともよばれています。^{ちようばんもくそうじゆんあもく}鳥盤目装盾亜目に属し、アンキロサウルス科とノドサウルス科にわかれますが、足跡化石ではどちらの科のものかはわかりません。



アンキロサウルス（作画 林重雄）

凸型の足跡化石のできかた

- ① やわらかい泥の上を恐竜があるいて、足跡のくぼみができます。
- ② 洪水がおきて、足跡のくぼみに砂がたまりました。
- ③ 長い年月をかけて地層になります。
- ④ ^{ちかくへんどう}地殻変動で地層が隆起して崖になる。
- ⑤ 下側にあった、もろい泥岩でできた凹型の足跡がけずられて、硬い砂岩でできた凸型の足跡化石が発見されました。

（藤田将人）

発見された足跡化石は、平成26年1月31日まで当館1階ロビーで展示しています。

